

第3章

基本構想について

- 1 人口ビジョンとKGI …………… 12
- 2 将来イメージと基本理念 …………… 16
- 3 まちづくりの基本目標・基本施策 18
- 4 基本施策 …………… 20
- 5 行財政マネジメント …………… 62
- 6 南知多町がとるべき戦略 …………… 68
- 7 重点政策 …………… 72



1 人口ビジョンとKGI

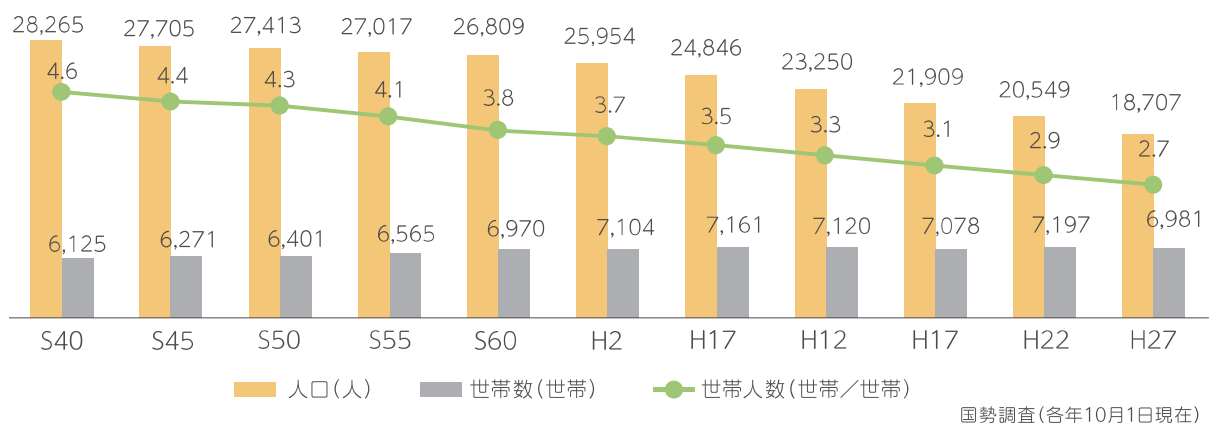
(1) 南知多町の将来人口と目標人口

本町の人口は、昭和40年以降、減少が続いており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、本町の将来人口は、以下の「南知多町の将来人口予測と目標人口」で示す通り令和32年時点で7,488人となり、令和47年時点で4,422人と推測されています。

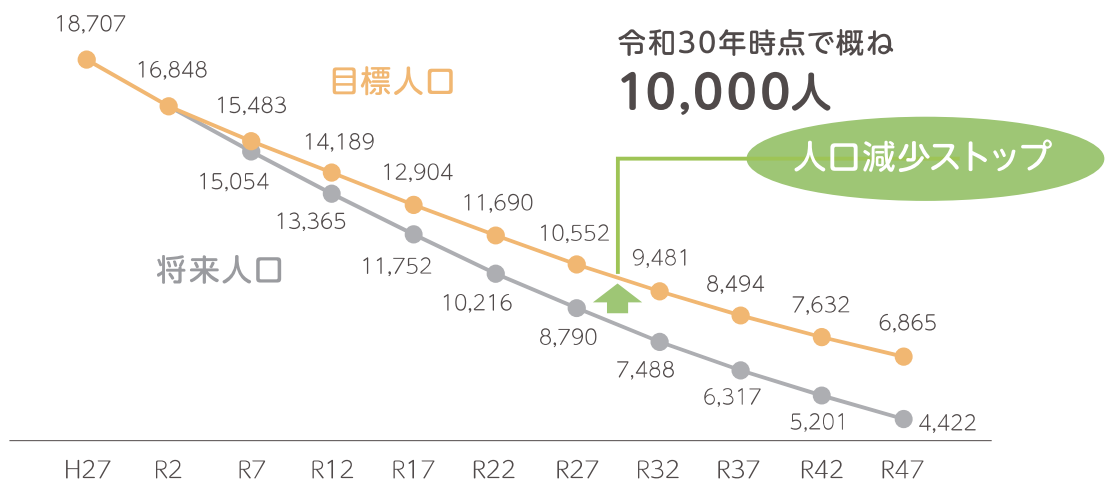
今後、日本全体で人口減少が進む中で、本町だけが人口増加に転じることは極めて困難であると考えられますが、急激な人口減少は町民生活にも行政運営にも大きな影響を与えることから、人口減少の抑制に努める必要があります。

そこで、30年後の人口が現状18,707人(平成27年)の半分以下にならないように安定させるため、令和30年時点で概ね10,000人の人口を維持することを目標とします。

人口・世帯数の推移



将来人口予測と目標人口

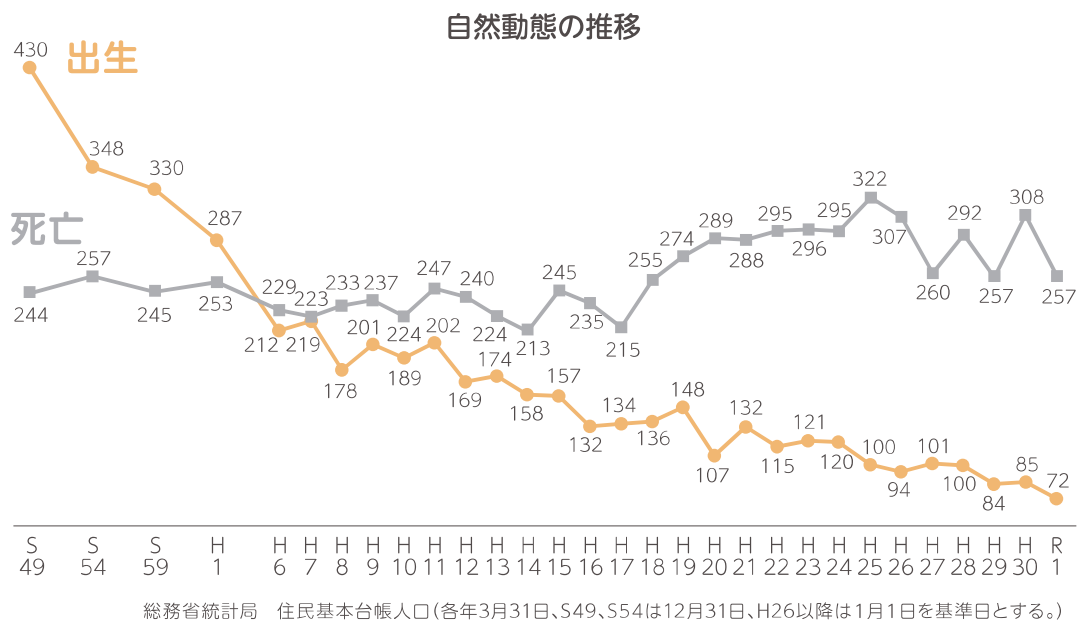


将来人口: 国立社会保障・人口問題研究所推計結果に準拠して推計

(2) 少子化への対応

本町の自然動態(出生数と死亡数の変動)の推移をみると、平成6年以降は、自然減(出生数より死亡数が上回る状態)になっています。出生数は減少傾向が続いており、今後も減少することが予想されていることから、人口の自然減が続く推計となっています。

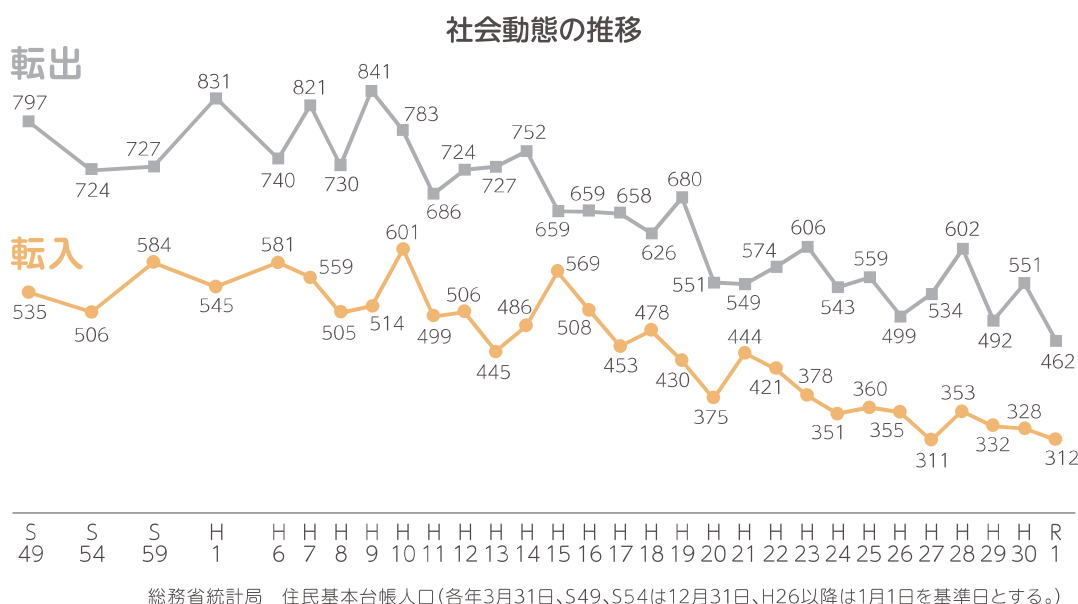
そのため、出生数が向上する少子化対策が求められます。



(3) 人口流出への対応

本町の社会動態(転入者数と転出者数の変動)の推移をみると、昭和49年以降、社会減(転出が転入を上回る状態)が一貫して続いています。

そのため、転出を防ぎ、転入を促進する移住・定住対策が求められます。



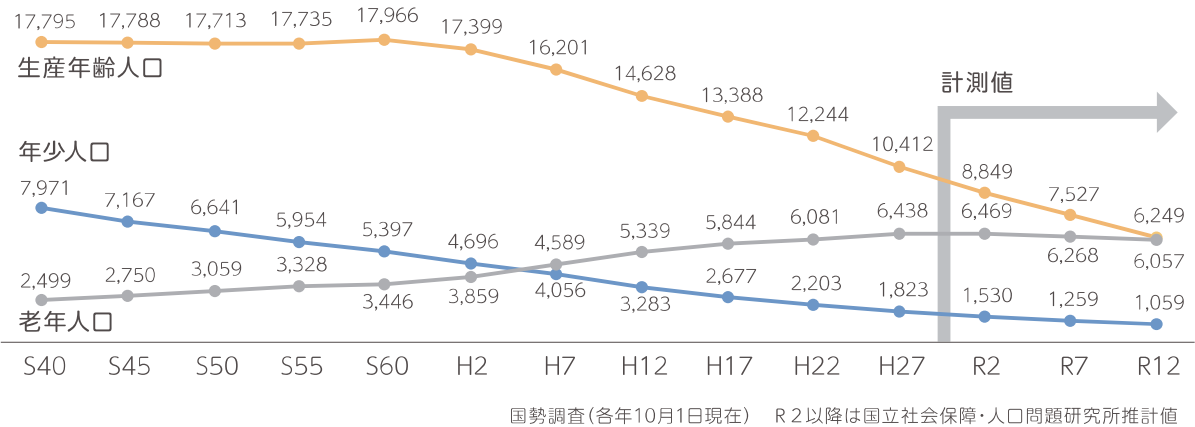
(4) 高齢化社会への対応

本町の高齢化率の上昇は著しく、生産年齢人口(15～64歳)と年少人口(0～14歳)の割合が減少する一方で、老年人口(65歳以上)の割合は増加を続けています。

しかし、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和2年前後から老年人口は減少に転じることが予想されています。

そのため、医療・福祉分野を始め、今後、高齢者の増加が進む都市部とは異なる対策が求められます。

年齢3区分別人口構成の推移

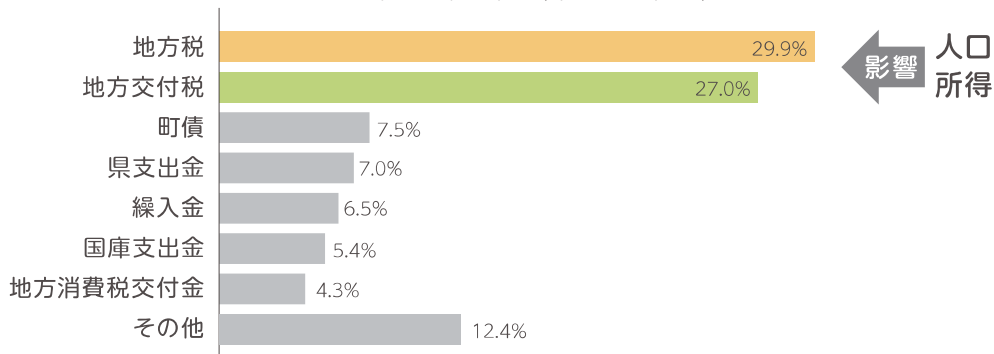


(5) 行財政上の人口減少抑制と町民所得向上の必要性

本町の歳入の主なものは地方税と地方交付税です。地方税は個人、法人の所得により変動し、地方交付税は基準財政需要の測定単位として国勢調査時の人口を用いています。行政サービスの財源を確保するためには、人口減少を抑制し、人口の安定化を図る必要があります。

また、人口減少は日本全体で進んでおり、本町の人口が今後も減少することは避けられません。人口減少下においても安定した財源を確保するためには、一人当たりの町民所得の増加が必要となります。

歳入の構成比(令和元年度)



(6) 目標指標(KGI)の設定

町民生活を将来にわたり持続可能なものとしていくためには、少子化、人口流出、高齢化に対応し、将来の人口減少を抑制し、行財政の持続可能性を確保していくことが必要となります。これらの課題に向き合い、解決に向けまちづくりに取り組んでいくために目指すべき指標として、第7次総合計画のKGI(目標指標:Key Goal Indicator^{※1})を**出生数**とします。

令和30年時点で概ね10,000人の人口を維持するために、第7次総合計画の終了(令和14年度)時点で維持すべき出生数として、KGIの目標数値を75人とします。

目標指標(KGI)

令和14年度時点で維持すべき出生数 75人

出生数の向上には、若年層の転出の抑制と転入の増加、出生率の向上など、人口の安定化に必要な多くの要素が関わっています。これらの要素を向上させるには、子育て支援だけでなく、仕事、住環境など、様々な観点から魅力あるまちづくりが必要となります。

(7) 目標指標(KGI)達成のために

目標指標(KGI)達成のために、具体的にどのようなまちづくりを目指すのか、将来イメージや基本理念を定め、それを実現していく基本目標、基本施策、戦略、政策を明確にしていきます。

【基本構想における7つの構成】

- 人口ビジョン…令和47年までを推計の対象とし将来展望を描き、本町として対応すべき課題をまとめたもの。
- 将来イメージ…将来も「こうあってほしい」と共有する本町の姿。
- 基本理念…将来イメージを実現するためのまちづくりの基本的な考え方。
- 基本目標…将来イメージを実現するためのまちづくりの基本的な目標。
- 基本施策…将来イメージを実現するために本町が継続して取り組む施策をまとめたもの。
- とるべき戦略…本町の強みや弱み、機会、脅威などを踏まえたとるべき戦略。
- 重点政策…将来イメージの実現に向けて優先的に取り組まなければならない政策。

※1 KGI

Key Goal Indicator(キーゴールインディケーター)を省略したもので、日本語では「重要達成目標指標」と言われ、総合計画の「最終目標」となります。

2 将来イメージと基本理念

(1) 将来イメージ

本町にかかわる人々が、第7次総合計画期間が終了する令和14年度、そしてさらにその先の将来も「こうあってほしい」と共有する本町の姿を、将来イメージとしてまとめました。

【将来イメージ】

絆・選ばれる理由があるまち

ボンディング リーズン トゥ ビー チョウズン
～ Bonding, reason to be chosen ～

<将来イメージに込められた願い>

本町には、現代社会で薄れているご近所づきあいやコミュニティ活動、地域での支え合いなど、人と人のつながりが生活に残っています。これは、不安感と孤独感が立ち込める現代社会において、希望になりえる本町の強みです。

このつながりを、ご近所だけでなく、町内の地域間、近隣市町、全国、世界に広げる。また、多様な世代や文化、産業間、公と民、地方と都市など、異なるもの同士でもつながる。人口が減っていく中でも、助け合い支え合うことで心豊かに暮らしていける。様々なものがつながり合うことで、これまでになかった方法で課題を解決し、地方から新しい価値を創造する。

このように、多様なつながり＝「絆」を大切にし、活かすことで、心豊かで創造的なまちとなる。それが魅力となって住む・働く・訪れるまちとして「選ばれる」、そんな姿を本町の将来イメージとして提案します。



(2) まちづくりの基本理念

将来イメージ「絆・選ばれる理由があるまち」を実現していくために、まちづくりに関わる人々の行動指針として、基本理念を以下のようにまとめました。

【基本理念】

暮らし続けられるまちを“あなた”とつくる

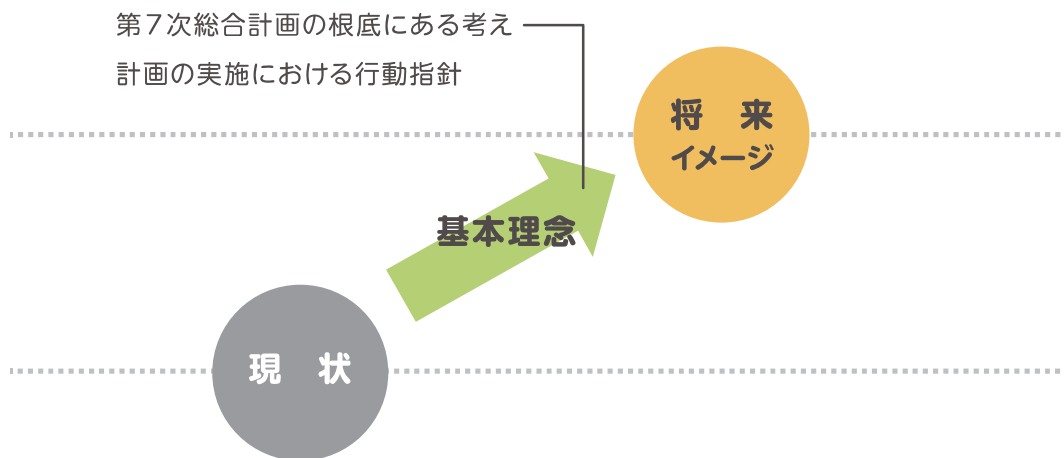
<基本理念に込められた想い>

将来イメージを実現するためのまちづくりは、行政の力だけではできません。

なぜなら、魅力的なまちは、行政だけでなく、町民、企業、関係団体、その他多くの人々の日々の積み重ねによってつくられるものだからです。

また、「自分がまちをつくっている」という実感をまちづくりに関わる全ての人々が持つことによって、地域に対する愛着が湧いていき、「ここで暮らし続けたい」という想いに繋がります。

そのため、このまちを選んでくれた全ての「あなた」とともに、暮らし続けられるまちづくりを行います。



3 まちづくりの基本目標・基本施策

(1) 計画の体系図

将来イメージや町長マニフェストを実現していくため、「地域で育むひとづくり」「地元をにぎわすしごとづくり」「安心できるまちづくり」の3つの基本目標プラス「行財政マネジメント」を柱とし、それぞれで実施すべき25の基本施策を定め、暮らし続けられるまちづくりを力強く実行していきます。

将来イメージ	基本理念	基本目標	基本施策	KPI ^{※1} (現状値)	KPI (目標値)
絆・選ばれる理由があるまち	暮らし続けられるまちを“あなた”とつくる	地域で育むひとづくり	1-1 地域で大切に育てる子育て環境	89	95
			1-2 次代の担い手を育てる教育環境	86	95
			1-3 生涯通じて取り組む健康づくり	89	95
			1-4 個性を活かす障がい者福祉	85	95
			1-5 安心して住み続けられる長寿社会	88	95
			1-6 豊かな自然を活かしたひとづくり	84	95
			1-7 郷土愛、つながりを育てる文化・スポーツ	79	95
		地元をにぎわすしごとづくり	2-1 豊かな海と産物を活かした水産業	84	95
			2-2 豊かな農地と産物を活かした農業	79	95
			2-3 新たな魅力や価値を生み出す商工業	84	95
			2-4 何度も訪れたい観光・交流	82	95
			2-5 新たなチャレンジを創る起業支援	74	89
			2-6 価値ある産業を残す事業承継支援	77	93
			2-7 働く環境づくり	81	95
		安心できるまちづくり	3-1 まちと命を守る防災	85	95
			3-2 つながりを活かした交通安全と防犯	90	95
			3-3 資源を活かす土地利用	74	89
			3-4 安心な暮らしを支えるインフラ	88	95
			3-5 暮らしを支える地域公共交通	76	91
			3-6 多様性を認め、共に支え合うコミュニティ	84	95
			3-7 心と体安らぐ自然・住環境	82	95
		行財政マネジメント	4-1 職員の成長とやりがい	87	95
			4-2 業務の高度化、効率化	89	95
			4-3 町民の満足度向上	84	95
			4-4 持続可能な行財政運営	84	95

※1 KPI

Key Performance Indicators(キーパフォーマンスインディケーターズ)を省略したもので、日本語では「重要業績評価指標」と言われ、総合計画の達成度を把握し評価するための「中間目標」となります。

(2) まちづくりの基本目標

施策や事業の実施により、本町が将来イメージに近づけているか、実現具合を測る尺度として、3つの基本目標に対し「ひとづくり指標」「しごとづくり指標」「まちづくり指標」を管理指標(KPI)として設定します。

まちづくりは、町民、企業、関係団体、その他多くの人々が、それぞれの取り組みを知り、積極的に関わり、可能な範囲で貢献し、それらの活動によって満足度を高めていくことが重要です。そのため、町民意識調査により3つの基本目標を構成する21の基本施策に対し重要度、認知度、満足度、貢献度を測り、これらを総合して数値化したものを基本目標のKPIとします^{※1}。KPIの向上を通じて、多様な人々がつながり、選ばれるまちづくりを目指します。

さらに21の基本施策では、満足度をKPIとして設定し、毎年度測定することで、基本目標の達成に向け、各施策の課題を把握し改善を図っていきます。

将来
イメージ

絆・選ばれる理由があるまち

地域で育むひとづくり

KPI:85pt(現状値)→95pt(目標値)

- まちづくりのすべての基盤は「ひと」づくりです。町民1人ひとり心豊かであり続けられるよう目指します。

地元をにぎわすしごとづくり

KPI:77pt(現状値)→91pt(目標値)

- 恵まれた自然環境や様々な観光資源を活かし、産業力を強化するとともに南知多町の強みを活かした雇用の場を確保できるよう目指します。

安心できるまちづくり

KPI:87pt(現状値)→95pt(目標値)

- 町民1人ひとりが希望を持ち、安全・安心でうるおいのある豊かな暮らしが実感できるよう目指します。

※1 町内各団体などから推薦された方、または公募により選出された方で構成する100名のモニターによる町民意識調査を毎年度実施し、その町民意識調査の結果により、例えば、認知度では「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」「3 知りたいと思っている」と回答した方の割合を測ります。満足度、貢献度についても同様とし、総合的に数値化します。満足度については、重要度で「1 とても重要」「2 ある程度重要」「3 少しは重要」と答えた人のうち「1 とても満足」「2 ある程度満足」「3 少しは満足」と回答した方の割合を数値化します。基本目標・基本施策の管理指標(KPI)の詳しい算出方法は、資料編(P87,88)に記載しています。